

1 産地の概要

<対象地域> 長生郡白子町

<対象品目> トマト

<産地の現状・課題>

- ・当産地はJA長生の一元集出荷施設(JAグリーンウェブ長生)を核とした周年出荷のトマト産地である。養液栽培が主流であるが、近年、若手生産者を中心として年1作長期取り作型での栽培が増加した。養液栽培の収量は30t/10a以上の生産者もいるが、平均は20t/10a前後で、改善の余地がある。
- ・施設内の環境モニタリング装置の導入が進みつつあるものの、データの分析・活用と産地内での共有はまだ不十分である。

2 検討体制

<白子町施設園芸研究協議会構成員と役割>

生産者(役割:実証ほの設置、管理、調査)

白子町(役割:スマート農業技術の現地導入に関する調整・事業の取りまとめ)

JA長生(役割:講習会、検討会に関する調整)

千葉県(長生農業事務所)

(役割:技術体系確立支援、スマート農業技術現地検証に関する調整)



環境モニタリング装置



現地検討会

3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

環境測定装置の導入を促進し、導入した生産者をグループ化して、生育調査データと環境データをもとにした栽培管理に取り組み、得られたデータをグループ内や産地で共有・活用して栽培技術の向上を図る。

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
現在の営農技術体系												
	環境モニタリング											
	生育分析・評価											



- ①環境測定装置導入
- ②データの一元管理

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
新たな営農技術体系												
	データ共有可能な環境モニタリング											
	共有データによる生育分析・評価											

<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

【現状】生育調査実施者5名 → 12名

2.4倍↑

【現状】スタディクラブ組織0 → 1組織

データ共有・分析による栽培管理技術の向上

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

取組主体	R 3	R 4	R 5
白子町	技術導入等に係る事業支援、関係機関の調整		
JA長生	講習会・検討会等の開催支援		データ共有体制整備
生産者	生育調査の実施、技術実証		
普及組織	技術体系確立、組織活動支援		